

高3が難関「簿記論」合格



土岐商の富沢さん

土岐市土岐津町の土岐商業高校3年でビジネス科会計研究コースの富沢の花さん(18)＝同市土岐津町＝が、昨年8月にあった税理士試験の必修科目の一つ「簿記論」に合格した。合格率17・4%の難関試験で、同校からの合格者は3人目となった。

(吉田英悟)

簿記論は、税理士に必要な税務・会計のスキルの試験で、「時間内に全問解けない」と言われるほど計算問題が多く、中には誰も解けないような難題が含まれており、合格には高い知識と能力が求められる。

簿記部に所属する富沢さんは、夏休みは毎日6時間、対策に費やすなど準備を進めてきた。

勉強方法はいたってシンプル。過去問を反復練習し、解けなかった問題についてどこでつまっていたか見直し、再度解き直す。問題が多い簿記論について富沢さんは「素早く解いていくことが重要になる」と対策してきた。

合格通知書を手にする富沢さん＝土岐市土岐津町の土岐商業高で

税理士試験の必修科目 将来の夢は公認会計士

本番では「ギリギリいけたか、落ちたか半々」という手応えだったといい、合格を知り「びっくりした」と振り返る。

同年2月には簿記能力検定の上級にも合格しており、難関試験の連続突破となった。

授業を受け持つ猿爪康太教諭は「口数は少ないけど、ぶれずに地道に努力できる」と評価する姿勢が実を結んだ。

富沢さんの将来の夢は公認会計士。簿記論と同じく税理士試験の必修科目である財務諸表論に合格すると、公認会計士の資格取得に必要な試験の一部が免除される。今回の合格は、あこがれの職業に一步近づいた形となった。

富沢さんは夢をかなえるため、高校卒業後は県内の大学に進学予定。「今は資格を中心に勉強しているが、実務で活躍できるように勉強もしていきたい」と力強く語った。

愛着ある日用品など紹介

中津川文芸の第9号刊行

中津川市を中心に県内外の書き手が寄稿する総合文芸誌「中津川文芸」最新刊の第9号が刊行された。矢野書店(中津川市本町)とコスモブックセンター(肅那市長島町)で取り扱って

ている。安校小や旭ヶ丘にた授業を取材し、目を輝かせる子どもたちの姿があった。部活動で吹奏楽遊び、プロを目指したりするかもしれない。

充実の内容を

